



232

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年10月13日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

論点

対談・新聞への提言

18日(金)＝オピニオン面



江戸時代の瓦版が源流とされる「新聞」は、150年以上の歴史

があります。しかし、インターネットの台頭で、近年、紙の新聞は岐路に立たされています。

そんな時代に、新聞が果たすべき役割は何か？どうやって確かな報道を次世代に受け渡すべきか？

これからの新聞の課題は？社会学者の西田亮介・日大教授＝写真右＝と、国際政治学者の山本章子・琉球大准教授＝写真左＝が対談しました。



特集ワイド

追悼・朝日の「絶滅危惧種」記者

16日(水)＝夕刊2面

ライバル紙、朝日新聞の記者である小泉信一さん＝写真＝が10月5日に亡くなりました。63歳でした。フーテンの寅さんや昭和歌謡をこよなく愛し、ひたすら街ダネを追い続けた

名物記者でした。盟友、酒友を自認するベテラン記者が、小泉さんと親交があった酒場詩人の吉田類さんのコメントも交えながら、長年にわたる小泉さんとの思い出を振り

返り、故人をしのびます。



衆院選党首討論会

10月13日(日)

＝1～3面

13日朝刊では、日本記者クラブで行われる「7党党首討論会」の論戦を詳報します。参加するのは自民、立憲、維新、公明、共産、国民民主、れいわの7党首。党首同士の質疑の第1部と、ベテラン記者たちが切

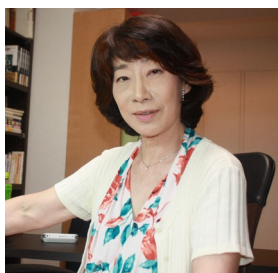
り込む第2部を1、2、3面で全面展開します。国会では80分で終わってしまっただけで、こちらは120分。ハイライトとなるやりとりと焦点をあててお伝えします。

そこが聞きたい

女性と反戦・平和運動 13日(日)＝くらしナビ面

ロシアのウクライナ侵攻が長期化する中、反戦を呼びかける女性たちの行動が注目を集めています。国連も、紛争地における女性の保護と、平和構築などへの参画を促す「女性・平和・安全保

障」(WPS)の取り組みを進めています。女性の権利擁護を訴えるフェミニズムと反戦・平和運動の関係について、ロシア文学者の沼野恭子・東京外国語大名譽教授＝写真＝に聞きました。



毎日新聞

(斎藤広子)

国内外で、選挙の季節となりました。11月5日の米大統領選では、共和党のトランプ前大統領と民主党のハリス副大統領の接戦が続いています。最新情勢や見通しを、現地の記者に聞いてみたい。そんな方にオススメしたいのが、17日のオンラインイベント「大統領選直前！『米国のリアル』」です。愛車で米国内を移動しながら取材する國枝すみれ記者が、現地で見た大統領選の舞台裏を報告します。みなさまの参加をお待ちしています。

竹橋の窓辺から

編集後記

